#### (史料紹介)

## 「梅颸御供」の翻刻と解説

# 小竹 佐知子、大久保 恵子

## 史料「梅颸御供」について

年)の母として知られている。

中)の母として知られている。

中)の母として知られている。

中)の母として知られている。

本稿では頼梅颸(通称 静子、一七六〇(宝暦一〇)年八月二九日本稿では頼梅颸(通称 静子、一七六〇(宝暦一〇)年八月二九日本稿では頼梅颸(通称 静子、一七六〇(宝暦一〇)年八月二九日本稿では頼梅颸(通称 静子、一七六〇(宝暦一〇)年八月二九日本稿では頼梅颸(通称 静子、一七六〇(宝暦一〇)年八月二九日本稿では頼梅颸(通称 静子、一七六〇(宝暦一〇)年八月二九日本稿では頼梅颸(通称 静子、一七六〇(宝暦一〇)年八月二九日本稿では頼梅颸(通称 静子、一七六〇(宝暦一〇)年八月二九日本稿では東梅麗(通称 静子、一七六〇(宝暦一〇)年八月二九日本稿では東梅麗(通知)

生活においては母であり、 を嗣ぐことになった1,2。 陽廃嫡後の養嗣子景譲 称 東ノ中ニ梅颸様御供3冊~ して不可欠な存在であった梅颸の喪の行事は、 九二一~一九九九年)が著者らに遺したメモ書き 『事庵詩稿』一 呼称 「梅颸御供」は、 は山陽の息子で、春水-梅颸にとっては孫にあたるが、 (春水甥) 頼家一〇代惟勤 事庵にとって梅颸は本来祖母なのだが、 また、 に由来する(一九九五年当時)。聿庵 の死去に伴い、 商家から儒家となった頼家の主婦と (お茶の水女子大学名誉教授) 当主聿庵にとって重要 最終的に聿庵が頼家 (通 実 Щ

> 御供」 (表1)。 梅颸死去の翌々日の一二月一一日から一月二九日までの四八日間の膳 御供」の資料整理は行われなかったことがうかがえるが、幸なことに、 惟勤氏による〝未加番〟 当てられている。 の献立が順番に綴じられており、 であったと推測できる。 朝夕奠御献立 の他に、 これらの各献立には、 頼家には先祖忌祭および時祭の献立が多数残ってお 上・中・下」と書かれた、三分冊になっている。 一方、 献立冊子 のメモ書きも遺されていることから、「梅颸 「梅颸御供」 前出惟勤氏により資料整理番号が割り 資料の散逸・欠損などはみられない (頼山陽史跡資料館所蔵) 献立には番号は振られておらず、 は表紙に 「梅颸

#### 献立内容

香物、 二日目の発引 め は、 わったものが主であった。この膳供物をおこなう五〇日間近くの時期 が供えられていた。 は朝奠と夜祭奠の二膳のみであったが、それ以降は朝奠、 供物食品のなかには、 ちょうど年中行事の年末および正月にあたっておりユ゙タ、 梅颸御供」 夕奠の三膳が供えられた。 御酒あるいは御湯の膳構成が主であった。午後奠には菓子と茶 (出棺) は三冊あわせると全部で五二丁から成り、 また、 の日から膳の記録が残されていた。 雑煮、 夕奠は朝奠の膳にさらに御向詰 七草粥、 朝奠は猪口、 小豆粥などがみられた。 御汁、 御平、 午後奠 発引の 御肴が 御飯、 梅颸没後 加 御 日

### 聿庵による忌明の記載

ている。その内容は以下のとおりである。 梅颸御供」 の最終部分には、 忌明けの様子が聿庵によって記され

戚の者でこれを頂いて、精進落ちとした。 男下女に下げるべきだが、既に忌明け後、三日も経っているので、 霊に酒肴を献上し、この日初めて、吉祭とした。 を行うことを拝告した。主人(余一=聿庵)だけで、 日なので、前日の二日に祠堂を開けて上香し、翌日(三日)に御祔囒 忌祭だけにして御祔隴は行わなかった。暦を調べたところ、三日は剛 までは行わなかった。三日祠堂を開けて上香し、高祖考から全ての御 あわせてお祭りするべきはずなのだが、亨翁様の御忌日なので、 一月一日は忌明けであり、 その上この日は剛日なので、すぐに先祖 供えた食品は全て下 親戚皆での拝礼 御 親

4

3

2

における食生活について検討してゆく予定である。 の献立内容4-8との比較検討を行うことにより、 今後これらの献立内容をさらに詳細に調査し、 頼家に伝わるその他 江戸後期の儒教家庭

#### 謝辞

号)の荒木清二氏および花本哲志氏には、資料閲覧に関して多大のご配慮をいた させて行ったものである。頼山陽史跡資料館(広島県広島市中区袋町五番一五 を読む会〉(代表 大口勇次郎お茶の水女子大学名誉教授)の活動をさらに発展 本研究は、お茶の水女子大学ジェンダー研究センタープロジェクト〈梅颸日記

だいたことを深謝する。

 $\widehat{1}$ 

小竹佐知子・大久保恵子「頼 山陽の母が書き残した『梅颸日記』にみ る食物関連事項とその内容の特徴」日本家政学会誌、 第六〇巻、 四 五

- 小竹佐知子・大久保恵子「頼家『家祭 年中行事控』の内容と食品」日本 家政学会誌、第六〇巻、一三九-一五二頁(二〇〇九) 五六頁 (二〇〇九)
- 小竹佐知子・大久保恵子「頼家献立資料の分類と解説」山梨県立女子短 期大学紀要、 第三五巻、 四一-五二 (二〇〇二)
- 一五頁 (二〇〇三) 二代―」 お茶の水女子大学大学院、 小竹佐知子・大久保恵子「頼家忌祭献立の翻刻と解説 人間文化研究年報、 第二六号、一-初代・
- 5 代およびその弟達―」お茶の水女子大学大学院、人間文化研究年報、 二七号、七-二一頁(二〇〇四) 大久保恵子・小竹佐知子「頼家忌祭献立の翻刻と解説 ―その二 第三
- 6 (三〇〇五) 代一」 お茶の水女子大学大学院、 小竹佐知子・大久保恵子「頼家忌祭献立の翻刻と解説 人間文化論叢、 第七巻、一-一二頁 ―その三

四

- 7 大久保恵子・小竹佐知子「頼家忌祭献立の翻刻と解説 六代―」お茶の水女子大学大学院、 10頁(二00七) 人間文化研究年報、 ―その四 第九巻、
- 8 刻と解説」お茶の水女子大学大学院、人間文化創成科学論叢、 小竹佐知子・大久保恵子「頼家時祭献立ならびにその他の饗応献立の翻 1 - 一六頁 (二〇〇八) 第一〇巻、
- 9 梨県立女子短期大学紀要、 小竹佐知子・大久保恵子「『頼家家祭年中行事控』の翻刻および解説」 第三五巻、 五三-五六(二〇〇二) Щ

おだけさちこ/日本獣医生命科学大学 非常勤講師 准教授)(おおくぼけいこ/都留文科

表1 「梅颸御供」冊子の構成

			_	Э/Π.	4:1:	<u></u> 衣 1	1177-101	即跃」而于	- 114794
年月日		冊	没丝	献	丁				
			後	立	<u> </u>		L 43	註	
			子	日	番号	朝奠	午後奠	夕奠	,
				数	号	1/4//	午奠	夜祭奠	I. F. SHAPPEN IN
天保 14年 癸卯		9日	_	0	_				梅颸没
	12月	10日	_	1	_				
		11日		2	1	1オウ	_	2オウ	発引(=出棺)
		12日		3	2	3才	3ウ	4オウ	
		13日	朝夕奠御	4	3	5.		5ウ	
		14日		5	4	6才		6ウ	
		15日		6	5			7ウ	
		16日		7	6			8ウ	
		17日		8	7	9才		9ウ	
		18日	献	9	8	10才		10ウ	
		19日	立	10	9			11 ウ	
		20日		11	10			12ウ	
		21日		12	11	13才		13ウ	
		22日		13	12	14才		14ウ	
		23日		14	13	15才		15ウ	
		24日		15	14	16才		16ウ	
		25日		16	15	167 17才		10 <i>ワ</i> 17ウ	
							7 才	18ウ	
		26日		17	16				
		27日		18	17		オ	19ウ20オ	
		28日		19	18		オ	21ウ	
		除日	朝	20	19		<b>. . . .</b>	22ウ	
天15—弘元甲	正月	元日	夕	21	20		才	23ウ	+0.65) - 4" +
		2日	奠	22	21	24オ 25オ		24ウ	朝奠に雑煮(雑烹、献烹)
		3日	御	23	22			25ウ	
		4日	献	24	23		オ	26ウ	
		5日	立中	25	24	27オ		27ウ	
		6日		26	25	28才		28ウ	
		7日		27	26	29才		29ウ	朝奠に七草粥(七菜羹)
		8日		28	27		オ	30ウ	
		9日		29	28		オ	31ウ	
		10日		30	29	32才		32ウ	
		11日		31	30	33才		33ウ	
		12日		32	31	34	<u>.</u> オ	34ウ	
		13日		33	32	35	オ	35ウ	
		14日		34	33		才	36ウ	
		15日		35	34	37	'オ	37ウ	朝奠に小豆粥
		16日		36	35		· 才	38ウ	1/1/201-1-11/1/
		17日	1	37	36		<u>^~</u> オ	39ウ	
		18日	1	38	37	40		40ウ	
		19日	1	39			才	41ウ	
		20日		40	39		· 才	42ウ	
		21日	朝	41	40			43ウ 43ウ	
		22日	夕	42	41		·才	43ウ 44ウ	
		23日	奠	43			: <u>~</u> :才	44リ 45ウ	
			御				<u> 4</u>  オ		
		24日	献	44				46ウ	
		25日	立	45			オー	34ウ	
		26日	下	46			才	48ウ	
		27日		47	46		才	49ウ	
		28日	'	48			<u>オ</u>	50ウ	
		29日		49	48	51	オ	51ウ52オ	
	2月	1日		50	_				梅颸忌明だったが、4代享翁忌日祭執行
		2日		51					祠堂開簾上香
					I				聿庵のみで、高祖考から考までに酒肴献上、
		3日		52		- 52 <i>ウ</i>			御祔祭拝告/吉祭として親戚で供物を分け食
									べ精進落ちとした
		4日		53					<b>聿庵「梅颸御供」記述終了</b>

「二】「梅颸御供」(その1)〔天保一四年(一八四三)一二月九日没〕









